

小学校第三学年社会科

「道具とくらしのうつりかわり」

出前授業実践報告

野田 繭子

岡山県立博物館（以下、当館）は、間もなく開館50周年を迎える。県内唯一の歴史博物館として、現在まで様々な教育普及事業を実践してきた。

本稿では、その中でも例年依頼が多い小学校第三学年社会科「道具とくらしのうつりかわり」の出前授業について述べることにする。

「博物館へは行くことがむずかしいが、是非児童に本物の資料を見せたい」、「何でもよいから博物館にある古い道具・昔の道具を持ってきてもらいたい」、「古い道具が学校にあるが、何と言う名前か分からない。授業で名前を教えて欲しい」等の依頼を受け、平成二五年度に着任して以来、教育普及担当・民俗資料担当として、のべ六三校、約五千人の児童と一期一会の授業を展開してきた。当館で管理している民俗資料の中には、生活の移り変わりにより、現在の暮らしから姿を消した道具、身の回りにある材料で製作された道具、現代でも使用されている道具、初見では使用方法が分からない道具等、学校の要望通り多種多様な古い道具がある。それらの道具を学校に可能な限り

持参し授業を展開する方法も考えられるが、「現在でも日常生活で使用されている道具、変遷がたどれる道具、道具の使用方法が分かった時に意外性がある道具」という視点から、火のし・炭火アイロン・電気アイロンを博物館から持参し、アイロンの変遷をたどりながら生活の移り変わりを伝える授業を展開している⁽¹⁾。

四五分の授業の中で、児童は以下の活動を行っている。

- ① 素材の確認
- ② 計測
- ③ 計量
- ④ 資料名を知る
- ⑤ ①～④を基に、資料の使用方法を考える

以上の五点である。

以下、五点について詳細を述べる。

① 素材の確認

一〇人前後の小規模校では、全員が直接資料に触れることで、素材を確かめることができる。しかし大規模校では、全児童が資料に触れることは困難である。そこで当館から、実物資料に加え、ビデオカメラを併せて持参し、資料をスクリーンに投影している（写真1・2）。児童はスクリーンを通して資料を観察したり、また学芸員が資料を手に持ち、児童の近くで資料を見せたりすることで観察できるように工夫している。児童は観

察を通して、火のしの素材は、木と金属が使用されていることを認識する。しかしながら金属の種類判別は一見しただけでは難しいため、磁石を用いて素材確認を行っている。児童は理科の授業で磁石につく物や磁石の働きを調べ、その性質について学習しており、既習学習事項を利用し、火のしの素材確認をする。

② 計測について

児童は日々の授業でプラスチック製の定規や三〇cmの木製定規を使用している。初見資料でも計測体験を想起することで長さを予想し実測をする。①の活動同様にスケールの目盛りをスクリーンに投影することで、児童は目盛りを読み取る。

③ 計量について

教室にはたくさんさんの教具がある。鍵盤ハーモニカ、辞典、習字道具等の重さを想起し、観察道具はそれらの教具より軽いかわりか予想を立て、より具体的に重さのイメージをもった上で実際に計量する。当館からは、ベビースケールを持参し、①・②の活動同様に量りの目盛りを読み取る。量りの目盛りを読む活動は算数科の既習学習事項である。

④ 資料名を知る

資料名は授業者から伝える。

⑤ ①～④を踏まえて、本資料は、何に使用された道具か友達と相談しながら自分なりの考えを発表する。

以上が児童の活動である。

火のしの「のし」とは、伸ばすという意味があり、火を使わずに伸ばすための道具である。当時の人々は、どのように火を利用したのか。火を使って何を伸ばしていたのだろうか。児童の思考を一つ一つ丁寧に組み立てていくことで、火のしは、現在のアイロンであることに気づくことができるようにしている。炭火アイロン、電気アイロン（昭和三〇年代製）については、児童に資料を見せるだけで、衣類のしわを伸ばすアイロンであると気づくことが多い。その場合には、①②③の活動は火のし同様行いが、炭火アイロンに蓋が付いている理由、現在と同じ形状である理由等、現在の道具との相違点に着目しながら各資料を観察するよう指導している。

授業のまとめでは、危険を伴いながらも使用していた当時の人々の苦労やその後の道具の変遷の理由を改めて考え、道具の移り変わりは生活の移り変わりであることを理解することができるようにする。現在の安全で便利な生活は、先人達の知恵や工夫によるものであることに、児童一人ひとりが思いを馳せてもらえるようになってほしい。

児童は、自身の体験を基に道具を観察することで、「昔の人は苦労したんだな」、「より便利に、より使いやすく、安全になっ

ていることが分かった」、「昔の人は、いろいろ工夫したことが分かった」、「昔の人の知恵や苦勞がたくさんつまった道具を大切に使い、百年、二百年先の人に届けたい」、「道具が変化すると危険がなくなることが分かった」、「最初は興味がなかったけれど、昔のものがいっぱい見れて心がうれしくなった」、「昔の道具をもっと知りたくなった」、「昔の道具についてもっと調べて、誰かに教えたい」等、手紙で感想を寄せてくれた。

スクリーンに投影される資料を観察する活動では資料の質感を感じることは難しいのではないかと館内から意見もあったが、出前授業担当者の人材不足や、児童一人ひとりが資料を間近で観察することは難しいため、現在は前述の方法で実践している。学校の担当者との打ち合わせでは、持参資料を使用してどのような授業を展開するかを伝えている（参考…学習指導案）が、多くの教員と児童は学芸員が持参する古い道具・昔の道具が、いつの時代のものか、室内・屋外の道具か、何に使われていた道具か情報がないまま授業の始まりを迎えている。実際に授業が始まると、前のめりになり一生懸命資料を観察する児童や教師の姿（写真2）、経験を基に資料の使用方法を考える姿、友達と意見を交換し合う姿等が見受けられる。授業が終わった後、「昔の人はすごいなあ」、「今日は頭をいっぱい使って考えた」という感想を発表してくれた。今後もこの授業展開を主軸として、各学校の実態にあった授業展開や、さらには、変遷をたどることのできる別の資料でも授業実践を検討している。

本年度から全面実施となった「小学校学習指導要領（平成二九年告示）」（以下、新指導要領）では、地域の博物館、美術館等の施設の活用を積極的に図ることが明記されている⁽²⁾。また、第三学年の目標では、地域の社会的事象について学ぶことに力が置かれている⁽³⁾。

新指導要領では、「博物館や資料館などの施設の活用を図る」とされ、内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携、事前に施設の実情を把握する等、連携を綿密にとることが大切であり、学芸員や指導員などから話を聞いたり協力して教材研究をしたりする等、指導計画を作成する手掛かりを得ることも一つの工夫であると示されている⁽⁴⁾。

学校環境や児童を取り巻く実態は異なるため、当館としては、各学校の要望や既習学習事項等を踏まえた上で出前授業を実践している。学校と博物館との互いの専門性を生かす「連携」は、新指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現につながり、実物資料を通じた学びが児童一人ひとりの「気づき」を生む。それは、児童生徒の知的好奇心を刺激し、家族で改めて来館したり、他の施設へ訪ねて行ったりと、彼らが将来にわたって文化や歴史を身近に感じてもらうためのきっかけとなるのではないか。学校教育における博物館等の利活用は、新指導要領が目指す「社会的な見方・考え方」を働かせる情報活用能力の育成と児童のよりよい学びにつながると考える。

教師からの事後アンケートでは、「関心を深めたり、心をひ

きつけられたりと有意義に過ごしたことで、本物を直に見せることの大切さを改めて感じました」、「授業では、児童も驚きの連続だったようです。授業を聞いて、ものを大切にしようと思いました」、「本で調べるだけでは分からなかったことに気付くことができました」、「昔の人たちは身近なものを使い、工夫して道具を作り生活をしていたことや昔の人々の工夫や努力のおかげで便利な道具ができ、便利な生活ができていることを感じることもできた」、「予測・実験・測定・考察等を通して当時の人々の生活や技術、思いを真剣に考えることができた」、「普段教室では見かけない児童の積極的な態度を見ることができた」等の声が届けられた。児童同様授業後の教師の表情からも、本授業が学校の要望に応えることができていると感じる。

今後も各学校と連携し、児童の将来を通じた学びの場の一助となるよう実践を続けていきたい。

《註》

(1) 学校の要望により持参資料は変更しているが、基本的には当該資料を持参している。また、事後授業に向けて、学校所蔵の道具を紹介する等、学校ごとの対応をしている。

(2) 「小学校学習指導要領（平成二九年告示）総則第3節、教育課程の実施と学習評価（7）学校図書館、地域の公共施設の活用（第1章第3の1の（7）」

なお、令和三年度に全面实施する「中学校学習指導要領（平成二九年告示）」、令和四年度から年次進行で実施される「高等学校学習指導要領（平成三〇年告示）」でも、博物館の活用について示されており、各

校種発達段階に応じて、博物館等社会教育施設の活用について学習指導要領に明記されている。

(3) 「小学校学習指導要領（平成二九年告示）第2章各教科第2節社会第2各学年の目標及び内容」、また「社会科編小学校学習指導要領（平成二九年告示）解説第3章各学年の目標及び内容第1節第3学年の目標及び内容」では、「生活の道具はどのように変化してきたか」、「生活の道具の時期による違いに着目するとは、電化製品が普及する前と普及した後、及び現在の生活の中で使用している道具の使い方や生活の様子について調べることである。ここでは、炊事や洗濯など家事に使用する道具や明かりや暖をとる道具など生活の中で使われた道具を取り上げることを考えられる」と明記されている。

(4) 「社会科編小学校学習指導要領（平成二九年告示）解説第4章 指導計画の作成と内容の取扱い2 内容の取扱いについての配慮事項（3）」

参考：学習指導案

(1) 本時の目標

道具を観察する活動を通して、道具とくらしのうつりかわりについて考えることができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 本時の学習課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 博物館の文化財を見せ、興味を持つことができるようにしながら、本時のめあてを知らせる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">昔の道具を観察しよう</div>		
2 文化財を観察する。 <ul style="list-style-type: none"> 観察の視点を知る。 ① 素材の確認 ② 計測 ③ 計量 ④ 資料名を知る ⑤ 使用方法を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員が文化財を観察する際の視点を知らせる。 ○何でできているか…木・鉄・銅 ○大きさ…cm ○重さ…g・kg ○火のしは火を使って伸ばす道具。 ○表面の様子や材質、大きさや重さ等から、文化財が「どのように使われていたのか」、「どんな場面で使われていたのか」等、観察を通して使用方法を考えることができるようにする。 グループの友達と相談しても良いことを伝え、自分の考えが持ちにくい児童にも、友達と交流をしながら自分の考えをもつことができるようにする。 	
3 全体で発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の言葉で発表できる環境を作るために、同じ意見でも発表するように伝える。 実際に使われていた当時の様子を写真で紹介し、本時のまとめとする。 	道具の観察を通して、生活の変化を捉えることができる。(発言) <思考力・判断力・表現力>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 火のし→炭火アイロン→電気アイロンと道具が変わると、炭の生活から電気の生活、着物の生活から洋服の生活へ、生活が変わることが分かった。 道具が変わると、より安全により便利になったことが分かった。 </div>		
4 本時のまとめをし、次時の学習課題をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 次時以降、教科書や図書資料、インタビュー等から自分たちの身の回りにあるその他の昔の道具に目を向けるよう呼びかける。 	

板書計画




めあて	昔の道具を観察しよう		
	火のし 	炭火アイロン 	電気アイロン 
何でできているか	木と銅	木と鉄	鉄とプラスチック
長さ	40cm	17cm	
重さ	500g	1kg800g(1.8kg)	
使い方	アイロン	アイロン	アイロン
まとめ	道具が変わると生活が変わる。安全で便利になる。		



写真1 スクリーンに投影された資料を観察する様子



写真2 スクリーンを通して素材を確認する様子



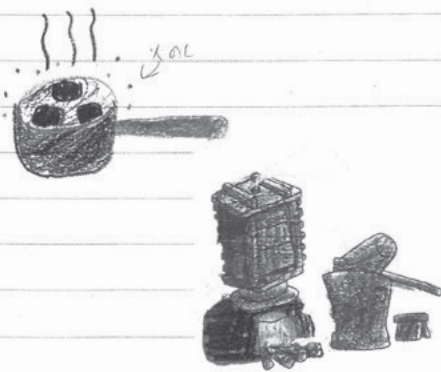
授業の様子



授業の様子

出前授業後に児童から届いた感想①

県立は物館の学び員さんへ
 まえ、アイロンやロウソク火とかを
 見せてくださってありがとうございます。
 アイロンは、昔、火のしや、すみ火、アイロン
 とか名前がわしくよくわかりました。
 だんだんつかいやすくなったのは、昔の人の
 のちで、いまがらくになつてゐるのがよく
 わかりました。これから、物を大切に
 につかいたいと思います。



わたしは、火のしという言葉はきいた
 ことがなかったのでビックリしました。
 昔は火のしとすみ火でふくをアイロン
 していることがわかりました。
 かって国語習字でしんでしらべて
 みるとほんとうに火のしとい
 いがよんだときにほんとうに昔の
 アイロンはあぶないんだなとおしえて
 くれてありがとうございます。
 ほかにもしょくたいやコードつきアイロン
 や炭火アイロンと火のしをまたどんな
 ことなのかまた、いろいろな人にも
 おしえてもらたこと
 をお母さんやいろいろな
 人におしえてみたいです。



野田先生へ

まうは、昔の道具をたくさん
 おしえてくれてありがとう
 ございました。

私は、昔の人の知恵や工
 業がたくさんつまった道具
 を大切に使い、100年200
 年先の人にとどけたい
 です。

道具がかわることは、生活の
 へん化になりまけん
 がへることか分かりま



里予田先生へ

今日は、昔の道具の勉強
 に来てくださってありがとう
 ございます。


今日は、昔のアイロンについて
 教えてくれました。

里予田先生のはたらいている
 日ん物はく物館に行きたいです。




出前授業後に児童から届いた感想②

野田先生へ
 ぼくは昔のアイロンがひしゃくのよ
 うな開クで火のしいう名向だったこ
 とにおどろきました。すみかまるお
 しでやけどするよな開ッで
 手づくりたがらおどろき
 ました。火の物はカスで動い
 ていたので前より安全になっ
 ているいいと思いました。

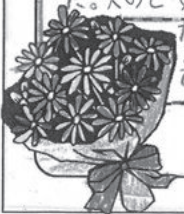


野田 先生へ
 たくさんのおもてきて、せうめいしてくださって。
 ありがとうございませ。昔の人の発日月のくり
 がえしてべんりになっていませなることわ
 ずとよくわかしませのいろいな
 こともおしえてくださっておれ
 びがせました。



ありがとう
 ございませ

野田まゆ子 さんへ
 今日は来てくださってありがとうご
 ざいませ。わたしは今のアイロンが
 昔ではすみを作っていることをは
 じめてきました。アイロンがさうごら
 いしんかしているなどしりませんで
 した。わたしの中では、昔の人は、すご
 いは、そがかがしいと思ひました。
 昔のれいごうこは、一番上に水を入れて
 いることがわかりました。
 わたしもはこがうかんべいで、もっ
 と昔のことがしりたくな、てきませ
 した。火のしすみアイロンの重さをか
 たとき、火のしがごんかにか
 るいと思ひていなかたので
 ひっくりしました。



今日の学習の感想を書きましよう。
 名前 ()
 水曜日は、ありがとうございませました。
 火のしのもつとてをもつてもわづくな
 いように木でつくってあったのてなる
 ほとと思ひました。時かがわるに
 つれて道具もべんりになっていって
 いるということかとても勉強にな
 りました。昔の道具は、たくさんくろうも
 あったけどくろうもたくさんあることか
 わかりました。今はコンセントにさ
 してスイッチ一つでアイロンかあたにま
 りませ。今の道具はとてもべんりにな
 りました。でも昔の道具にもたくさん
 いいところかありま
 した。とてもいい勉強
 になりました。

